

# 恵庭市立図書館改修基本計画（案） 概要版

## 1. 計画概要（計画の目的、施設概要） 参照：1 ページ

- ・恵庭市立図書館は建設から 33 年が経過し、老朽化が進行している。一方で目標耐用年数は 27 年残っており、**長寿命化改修が必要**となっている。
- ・そのため、長寿命化と機能強化を図る改修基本計画を策定し、**民間活力の活用も視野に効率的かつ効果的で質の高い図書館サービスの提供**を目指す。

## 2. これまでの検討経過 参照：2～9 ページ

- ・2018 年度以降、劣化診断、各種アンケート、公園計画との連携検討など多面的な調査を重ね、図書館の現状課題と将来ニーズを整理してきた。
- ・その結果、**市民の意見を踏まえた“つながる図書館”というめざす姿を定め、公園との一体利用や交流・学習機能の強化が重要方針**として位置付けられている。

## 3. 市場調査 参照：10～12 ページ

- ・図書館事業者・公園計画事業者・商店街へのヒアリングにより、**学習・交流・準開架の需要、カフェ等の複合機能、公園との一体利用など多様な要望**が明らかになった。
- ・これらの意見から、“**つながる図書館**”の実現には**交流空間の拡充、動線改善、ボランティア室機能の強化、公園連携が重要**である点が確認された。

### 4.1. リニューアル・改修方針 参照：13～18 ページ 4.2. ゾーニング計画 参照：19～25 ページ

項目	内容
リニューアル・改修方針	・恵庭市立図書館が目指す「 <b>つながる図書館</b> 」の実現に向け、 <b>館内機能の再編（動・静のゾーニング）、諸室の最適配置、利用者サービス向上、公園連携の強化</b> を柱とする改修方針とした。
ゾーニングの基本的考え方	・館内を比較的にぎわいのある「 <b>動のゾーン</b> 」と、落ち着いて読書・学習ができる「 <b>静のゾーン</b> 」に分離し、利用目的ごとに適切な環境を提供する。この再編により、来館者の滞在満足度を高めつつ、管理面の効率化も図る。 ・利用目的に合った空間配置により、「 <b>にぎわいと静けさの両立が可能になる</b> 」、公園側への開放により「 <b>公園と図書館が“つながる”導線を形成し、来館者の回遊性が向上</b> 」、交流・学習・子育て支援など「 <b>多様な市民活動に柔軟に対応できる図書館へ進化する</b> 」などの効果が期待される。
2 つの計画案	・ <b>内部改修案（既存スペースの再構成）と増築案（新たな機能追加）</b> の 2 つの計画案を検討した。 ・共用や狭隘化を想定する諸室も含まれることから、新たな機能を付加した上でこれまで有していた諸室の機能を支障なく運用するためには、 <b>一定の増築を行う必要がある</b> 。
ICT 化・安全性向上・動線改善	・セルフ貸出機、監視カメラ等の導入、閲覧席や学習席の拡充、公園側へ出入口（風除室）を新設し利用の回遊性向上など、ICT と動線改善により、利用しやすく安全な図書館を実現させる。
公園連携と屋外空間の活用	・恵み野中央公園と一体的に利用できる環境整備として、公園側出入口の整備（自由な行き来）、屋外読書スペースの設置、バルコニーの再活用（ウッドデッキ等）を実施し、地域の学びと憩いをつなぐ新しい拠点づくりを図る。

### 4.3. 整備計画案 参照：26～27 ページ

#### ● 増築案（既存スペースの再構成 + 新たな機能追加）

- ・内部改修に加え、新たな増築部分を設けることで機能を強化する計画。**市民ニーズが高いカフェ・交流スペースの整備に対応し、より一層“つながる図書館”を実現できる案**として整理した。

項目	新たな機能追加
動のゾーン	企画展示、児童エリア、カフェ・物販スペースを整理して集約化、カフェを増築し交流機能を強化
静のゾーン	閲覧席、自習席、会議室の再構成、集会室を自習室として再整備、準開架書庫の拡大により蔵書スペースを最適化、公園側のサブエントランス化により公園と図書館の一体利用を促進
準開架書庫の導入	集会室・研究資料室を蔵書スペースとして再活用
その他	ボランティア室拡大、授乳室新設、動線改善

- ・リニューアル・改修方針に基づくと、**共用や狭隘化を想定する諸室も含まれる**ことから、**新たな機能を付加した上でこれまで有していた諸室の機能を支障なく運用するためには、一定の増築を行うことが必要**。

## 5. 長期修繕計画 参照：28 ページ

- ・長期修繕計画は、改修後も持続的に安全で使いやすい図書館を維持するためのコストを見通す、施設全体のライフサイクルコスト（LCC）を把握する、今後の財政見通しの基礎資料として活用できるものである。
- ・図書館の長寿命化を図るための修繕費を、内部改修案と増築案それぞれで算定した。建築・機械・電気設備の更新周期を踏まえて試算した結果、15年・29年という2つの期間で必要費用を整理した。
- ・建築・設備の更新を計画的に行うことを前提に、増築案の場合で、**リニューアルを含む改修事業費は約 9.0 億円、長寿命化費用は 15 年間で約 6.1 億円**と試算した。

項目	内容
【増築案】で必要となる長寿命化費用の規模 ※数値は内部改修案・増築案で概ね同水準	<ul style="list-style-type: none"> <li>●改修事業費：約 9.0 億円 (建築 2.2 億円、機械 0.4 億円、電気 0.2 億円、改修部分 4.5 億円、増築部分 1.8 億円)</li> <li>●長寿命化費用：15 年間で約 6.1 億円 (建築 0.1 億円、機械 4.1 億円、電気 1.0 億円、改修部分 0.7 億円、増築部分 0.1 億円)</li> </ul>
修繕対象の主な内容	<b>建築</b> ：外壁補修、屋上防水、内装更新 <b>機械設備</b> ：空調機械、給排水・衛生設備の更新 <b>電気設備</b> ：照明・受変電設備の更新

## 6. 事業・サービスの考え方 参照：29 ページ

- ・本計画で想定する改修事業は、設計・工事・運営を一体的に捉える考え方で整理した。
- ・事業範囲は、①統括管理業務、②設計・建設業務、③開業準備業務、④維持管理業務、⑤読書推進業務、⑥事業者からの提案事業の 6 項目で構成し、図書館運営の質向上と効率化を同時に図る仕組みとした。

## 7. 概算事業費 参照：30 ページ

- ・改修事業にあたっては、設計・施工・運営までを一貫の事業として捉えることとした（なお、増築案で算定）。
- ・運営期間は 15 年間と設定すると、**施設整備費は約 9.4 億円、維持管理・運営費は 15 年間で約 32.3 億円、総事業費は約 41.7 億円**と概算される。

## 8. 事業手法（総合評価） 参照：31～39 ページ

- ・「民間ノウハウの活用」、「図書館の魅力向上」、「リスク分担」、「事業継続性」、「施設整備の工期」、「財政支出」、「財政平準化」、そして市場調査の結果を踏まえた「実現性」といった**定性評価**に加え、「VFM の算出」による**定量評価**を踏まえ、**本事業では「DO 方式」が最も適していると評価した。**

- ・大きな理由は次の 3 点に集約される。

- ・民間の運営ノウハウを設計に反映しやすく、図書館の魅力向上につながる。
- ・改修事業として参加事業者を確保しやすく、実現性が高い。
- ・定量評価（VFM）でも従来方式より費用が抑えられる（約 4.5%の削減）。

- ・なお、本事業の施設整備は交付金等により一般財源負担は一部であり、一括設計施工による費用削減も見込めない。よって、DBO 方式でも整備費は削減せず、維持管理費のみ削減する想定とした。

事業手法	総合評価	評価内容
<b>DO 方式</b> (設計 + 運営を民間、工事は市)	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現実的で効果も期待できる</li> <li>・設計に民間の運営ノウハウを取り入れやすく、工事は地元事業者も含めて市が発注できるため、参加企業が多く、事業成立性が高い</li> <li>・従来方式より費用が抑えられる（約 4.5%の削減）</li> </ul>

## 9. 今後のスケジュール（予定） 参照：40 ページ

令和 8（2026）年度	公募資料作成
令和 9（2027）年度	公募・事業者選定
令和 9（2027）年度～令和 10（2028）年度	基本・実施設計
令和 11（2029）年度	改修工事
令和 12（2030）年度～令和 26（2044）年度	維持管理・運営（指定管理：15 年間で想定）

## 10. パブリックコメントの実施について

- ・募集期間 令和8年5月1日(金)～6月1日(月)
- ・意見総数 9件

持参	郵送	ファクス	電子申請	電子メール	意見箱	合計
0	0	0	7	1	1	9